

2022年1月27日(木) 19:30～

第6回 セミナー 学級の困った！を一人で抱え込まないで

議事録作成 玉置ゼミ7期生 下野綾巳

【今回の困りごと】

▼学級じまい

60. 3月にこんなクラスで在りたい！という雰囲気がない。子どもから、〇〇ことで話し合いたい等が出てほしい。

▼子どもの読み取り

51. 文章を読んで、内容が読み取れない子への指導

▼GIGA スクール構想での先進的な困りごと

52. Chromebook に慣れすぎてきたのか、第1フェーズを過ぎた感があり、classroom でのお知らせを言わないと見なくなっている。

【内容】

▼学級じまい

60. 3月にこんなクラスで在りたい！という雰囲気がない。子どもから、〇〇ことで話し合いたい等が出てほしい。

➡本年度、学級会等を大切にして学級経営を行っていた。

3月に向けて、教師主体ではなく、子ども主体でクラスの在り方を出して欲しい。

《他の先生方のご意見》

- ・子どもが主体性を持つときもあるが、教師が支援をする場合もある。
- ・あえて失敗しそうなことを投げかけてみて、つまづいたら話し合うことを提案する。
- ・次の学年のことを口に出してみる。
- ・どういったクラスにしたいかではなく、この1年間の積み重ねを意識させている。

《他の先生方のご提案》

●学級の色について

- ・自分の色を抜いていく

➡我流のクラスの決まりごとなくしていく＝次年度の担任や子どものために繋がる

- ・自分の色を付ける教師もいれば、色をつけない教師もいるのではないか。
- ・色を意識したことはない。

《和田先生のご意見》

○先生との思い出よりも子どもたち同士の思い出を

6年生に限らず、この学年・このメンバーは今年が最初で最後。
このクラスで良かったなと子どもが思うためにはどうすれば良いのか。
例) 座席替え／給食班を変えていく

○次の先生となった時に残っているものが多いとそれは本物！

次の学年で、担任が変わった時に自分の伝えたことが子どもたちに身につけていたのなら、それは教師として大成功である。

《玉置先生のご意見》

○クラスの在り方について主体的に動く子どもはいるのか。

それは、教師の願いなのではないか。

○玉置先生の実践例

- ・3学期の学級会は、子ども主体で行わせる。(そういったことが出来る学級の基盤を1年かけてつくりあげる。)
- ・クラスで9つの会を開く
例) 廃品回収のチラシ作り・中国語講座
- ・運営担当を決める

▼子どもの読み取り

51. 文章を読んで、内容が読み取れない子への指導

➡学力テスト等の初見の文章を読み取ることができない。

問題に答えることが出来ない。

文字読みをしている。

《他の先生方のご意見》

●読み取れていないと判断する材料はなにか

- ・教師のくだった発問(「この物語の主人公は?」「理由」等)に答えられない時
- ・言葉で表現することは難しいが、絵で表現できる子もいるため、絵でイメージを描かせる場合もある。
- ・読み取れる／読み取りが浅い／読み取ることが出来ない といった段階があるのではないか。

《和田先生のご意見》

○上手なキャッチボールが出来ていない時教師は読み取れていないと判断する。

読み取りが浅い／単語読み／文字読み 等の様々な読み方をしている。

一概に指導するのではなく、それぞれの読み方に合わせた指導を心がける。

○読む活動の必要性

文字離れが進んでいる昨今、正しい文字や言語に触れる機会は、授業のみの子どももいる。

国語は、「精読」（暗記するほど読み込む）が多い科目だが、昨今は「乱読」の活動が減少している。「社会」「音楽」、その他の科目においても教科特性の表現を学ばせるために、「乱読」を取り入れる。

例) ・各授業において、5分間は教科書を読む時間を作る。

- ・音読の宿題では、①国語の教科書を読むこと ②教科書以外の本を読むこととし、②を音読カードには記載する。

《新たな議題》

●ペアで話し合わせた時読み取りは進むのか？

進む

- ・学び合いにより読み取りは進む。

進まない

- ・全員が読み取りが出来るようになってからのペア活動を行うことが望ましいのでないか。
- ・ペア活動による読み取りへの即効性はない。

その他

- ・読み取ることは出来るのかも知れないが、それは教え込みになるのではないか。
- ・ペア活動が全て良いわけではない
 - ➡何でも「分からない」という子どもが自分で考える力をなくしている事象あり

《新たな議題に対する和田先生のご意見》

○ペア活動における3ステップ

- ①一人ひとりが意見・考えを持つ
- ②話し合うことで化学反応（考えの深まり／分かった！の気持ち）が起こる
- ③最後に一人で振り返りを行う＝個人の力

○自分の考えを持たせるための授業をしなければならない

《新たな議題に対する玉置先生のご意見》

○対話は、2人が読み取れていないと対話にはならない。

ミニ teacher = 教え込み

○いい学級とは、「分からない」を伝えられる学級

上位層が教え込むのではなく、下位層から「分からない」「教えて！」を引き出す学級
分からないも一つの意見

▼GIGA スクール構想での先進的な困りごと

52. Chromebook に慣れすぎてきたのか、第1フェーズを過ぎた感があり、classroom でのお知らせを言わないと見なくなっている。

➡Chromebook の入った当初は、活発に活用していたが、今は段々と当たり前になっている。

classroom で発信される委員会等のお知らせを見ない。

大事な情報を見逃す等の事案が発生している。

子どもにとって、活用になっているのか？負担になっているのか？の過渡期

《他の先生方のご意見》

・授業でのみ使用し、教室に端末が置いていない。

・学習に用いるものと確立しているため、お知らせ等では用いていない。

(今後、用い方を広げていこうと考えている)

・classroom を連絡帳として使用しており、お知らせを見ることは習慣化している。

(高学年での用い方)

・classroom にリンクを貼る等をして、classroom になれる作業を行っている。

(低学年での用い方)

➡各学校により ICT 活用の進度に差がある現状

《和田先生のご意見》

○ICT の活用で黒板はスッキリ綺麗に！

ICT が無かった頃は、紙媒体のお知らせを黒板に貼るため、黒板がいっぱいとなり授業で用いる板書スペースが限られていた。

そういった悩みが解消されたのではないかな。

○二刀流はやめよう

Classroom でのお知らせを子どもが見ないからといって、紙媒体でも提示することは良くない。子どもたちが今後生きていく人生において、高校受験や大学受験においても端末からお知らせを見て、自分で確認しなければならないのであるから、その習慣をつけなければいけない。